

# インターバンド・ニューズレター



## 【特集1】アチエ市民社会と平和会合の開催

### ● アジアにおける信頼醸成と平和構築 - インターバンドの役割 - 代表 山田満



シンポジウム会場の様子(©松浦)

2005年9月に、早稲田大学21世紀COE「現代アジア学の創生」との共催で「アジアにおける信頼醸成と平和構築」をテーマにした国際シンポジウムを開催した。この国際会議の主要な目的は、同年8月にヘルシンキで締結されたアチエ紛争の和平協定を受けて、それを完全な平和プロセスへと導く、アジア、日本、そして市民社会の強い支援ネットワークを築くことであった。

パネリストとして、紛争当事者の一方であるGAM(自由アチエ運動)指導者、アチエ選出国会議員でインドネシア最大のイスラム宗教団体ムハマディアの指導

者、紛争でもっとも被害を受けている市民社会の指導者を招いた。さらに日本を含めた近隣諸国からはアチエ紛争に懸念を抱く弁護士や研究者らが参加して、和平協定合意(MOU)の障害となる諸問題、あるいはそれを遵守させる国際環境の構築に関して討議がなされた。

国際シンポジウムから半年を経て、MOUの進展状況はどのようなのだろうか。インターバンドのネットワークからは深刻な知らせが届いていない。インドネシア国軍とGAMとの多少の衝突は伝え聞かすが、GAMの武装解除と国軍・警察の撤退は順調に進んだようだ。昨年12月末には、GAMが軍事部門の解散を宣言し、他方でアチエ現地採用の兵士・警察官を残してアチエから国軍・警察は撤退した。前回の和平合意における最大の失敗要因だけに大きな平和への一歩が進んだといえよう。国際社会の関心を背負ったアチエ監視ミッション(AMM)の役割が機能したと思われる。

アチエの今後の平和プロセスの行方は、6月に予定されている地方選挙になる。GAMは政治団体として活動を行うという。国軍は長年にわたる人権侵害行為に対する裁判を恐れている。また、長年築いた利権を失いたくないであろう。このような状況下で選挙が実施されるとなれば、当然不正、脅し、殺人などの混乱が予期される。

インターバンドは民主化支援、平和構築NGOとして、アジアの市民社会とともに6月の地方選挙が「自由で公正」に実施されるように支援したい。アチエ紛争の再発を阻止しなければならない。そのためにもアジアの市民社会と協力して日本政府や国際社会に働きかけたい。半年前の国際シンポジウムはまさにそのための国際会議であったといえよう。



3日目の第7セッションで司会を務めた筆者(©松浦)



2006年4月19日発行

### 【特集1】アチエ市民社会と平和会合の開催

2005年9月23日～25日、早稲田大学にてアチエ市民社会と平和会合が開催されました。この会合にはどのような意義があったかなどについて特集します。

### 【特集2】2006、小型武器年に向けて

本年2006年は、国連小型武器再検討会議が開催されることから、小型武器勝負年と言われています。国際的な規制の進展に向けた市民社会の役割について、特集します。

## 目次

【特集1】アチエ市民社会と平和会合の開催 ・アジアにおける信頼醸成と平和構築-インターバンドの役割-(山田満) ・「アチエ人と考える平和」を終えて(勝股悠) ・事務局便り	1-3
【特集2】2006、小型武器年に向けて ・小型武器問題における今後の市民社会の役割(世一乃里子) ・ウガンダ北部の現状とその周辺地域での小型武器問題への取り組み(小川真吾)	4-5
カンボジア除隊兵士プロジェクト ・カンボジア除隊兵士プロジェクト視察報告(上柴このみ)	6
国際シンポジウムの開催	7
コラム 書籍紹介、映画紹介、インターン対談	8-9
活動録、お知らせ、編集後記	10